

重原 道雄（重原 聖鳥）（しげはら みちお） 〔書道〕

昭和 8（1933）年 3 月 23 日生（満 87 歳）
市貝町在住

氏は、大学 2 年の時に、後に文化勲章を受章される書家の金子鷗亭氏に師事し、書の研鑽を積まれ、大学卒業後は、作新学院高等部の書道科教諭として、退職までの 42 年間、書道教育に力を注がれました。その間、栃木県高等学校文化連盟書道部会の創設に尽力され、全日本高等学校書道教育研究会では副会長の要職を務められるなど、高等学校における書道の普及・発展に貢献されました。

氏は、栃木県芸術祭書道展において、30 代半ばから運営に携わり、栃木県の書道の振興に尽力され、多くの書道愛好家に影響を与えられました。

また、平成 2 年には、栃木県が主催する浙江省書道芸術祭訪中団の副団長を、平成 21 年の栃木県書道連盟と浙江省書法家協会による書法友好交流展では栃木県側の代表を務められるなど、書を通じた国際交流にも貢献されました。

さらに、栃木県書道連盟において、30 歳代で幹事に就任されて以来、事務局長、副会長、会長を経て、現在の常任顧問に至るまで、組織の発展のために精力的に活動される一方、市貝町文化協会や下野書道会の設立にも奔走されるなど、栃木県書道界の牽引役として多大な貢献をされるとともに、創玄書道会審査員、日本の書展招待作家、毎日書道展審査会員になられるなど、中央書壇でも広く活躍されています。